

# CHALLENGER

## [ 挑戦者たち ] ③



### 但馬牛

tajima ushi

150年の長きに渡って、受け継がれてきた但馬牛の血統。そこには幾度もの困難を乗り越え、その歴史に挑んだ人々がいた。

### 血統を守れ

「コンピュータや数字でいい牛が作れるのか」風光明媚な竹田城から山を隔てて位置する、北部農業技術センターの研究者たちに浴びせられる言葉は厳しかった。研究者たちは新しい種雄牛の選定方法を畜産農家に提案していた。それは牛の能力を数値化し、そのデータを元に、優良種雄牛を生み出すという方法。経験と勘によって決められることの多かった世界に、数字やデータを持ち込むことは新たな挑戦でもあった。

「優秀な種雄牛を作る」これは、但馬牛が最高級和牛を生産し続けるための最大のテーマである。但馬牛が今日、その優れた肉質を保ち、全国のと牛の素牛となりえた原動力は、優秀な種雄牛の作出だ。厳しい

選定をくぐり抜けて種牛に選ばれた雄は、最長のもので約15年の間、その最高の遺伝子を受け継いだ何千頭もの子牛を誕生させていく。

ほとんどが人工授精で行われる牛の繁殖。センターからよい系統の牛の種(凍結精液)を買い、子牛を産ませる繁殖農家には雌牛しかおらず、種雄牛作りは現在、すべてセンターに任せられている。それだけに研究者にかかる責任は重い。いかに優れた種雄牛を作り出すか。彼らは四六時中、そのことだけを考えている。しかも、但馬牛は世界で唯一、他地域の牛との交配を避けて純血を守ってきた歴史がある。他県の優秀な牛の種を買い付けることはできない。当然、近親繁殖による弊害も危惧され、効率の高い優秀種雄牛の選定方法が急務であると考えていた。

「このままでは、但馬牛の血統が途絶えてしまう」とあせる研究者。偉人たちが改良に改良を積み重ねてきた「血統の歴史」を、自分たちが

終わらせるわけにはいかない。よい種雄牛を作ること、受け継がれてきた最高の血統を守ることでもあった。その血のじむような歴史は、約150年前にさかのぼる。

### 但馬牛を創った男

「牛飼いの坊主」と呼ばれた少年がいた。小代(現在の美方町)の野山を牛と駆け回り、まわりがあきれるほどの牛好き。ときには、牛の取引と小代牛の宣伝に、わざわざ大阪の市場まで牛を連れて出かけたという。まさに牛とともに生きた生涯。この男こそ、但馬牛の生みの親といわれ、最も古い「蔓」を作った前田周助(1



入館無料

日本一の味しまん  
ぼたもちの館  
— 稲葉本家

昔なつかしい  
ホッとできる空間  
癒しの時間を  
お楽しみください



会議やお食事に利用していただけるほか、陶芸などの創作活動や体験もできます。



象商 稲葉本家

京都府熊野郡久美浜町三二二  
電話番号 七七二(八)二三五六  
休館日 毎水曜日





美方町野間谷地区入り口には前田周助を讃える石碑が建っている

797(1872)、その人である。「蔓」とは、他地域との交流を避けた「閉鎖育種」の方法で生み出された、発育、資質、繁殖性の優秀な牛の血筋のことを言い、その系統牛を「蔓牛」と呼んだ。

周助はこの蔓牛の開発に一生をかけた。系統牛になりそうな牛がいると聞けば、東へ西と駆け回った。そのためには資財をなげうって、牛を買い求める毎日。牛は増えたが、家族は出ていった。それでも、彼の情熱がおさまることはなかった。

そして、ついに100年に一度の名牛、村岡町の3才雌牛を手に入れる。そこから、飼料の選定から一切の手入れ、特に繁殖には多年の研究と経験のすべてを注いだ。

その結果、年々そのよい特質を伝えた子牛を生産し、「ここに『蔓』が生じた。この牛の系統は、周助蔓」と呼ばれるようになった。その後改良を加えながら大事に守られ、これが、現在の但馬牛の代表的な蔓のひとつ、「あつた蔓」の素となっている。

先人たちによって、脈々と受け継がれてきた血統の歴史。それは、今、研究員たちの肩に重くのしかかっている。新しい種雄牛の選定方法をどう受け入れてもらえるか。研究員たちの苦悩は続いていた。

## 新たな第一歩

新しい種雄牛の選定は、毎年、その候補としてよりすくりの16頭が選ばれる。選抜された候補牛は、その後、1日に体重が何キロ増えるか、エサをどれだけ食べるか、精液性状などによってその能力が数値化され、さらに優秀な7頭へと絞られる。

ここからがいよいよ、種雄牛になるための最終検定。まず、先ほどの残った7頭が繁殖農家の雌牛に種付けされる。そこから生まれた子牛16頭を半分はセンターで、残りは肥育農家で育て、出荷された肉の状態(霜降りの入り方等)などを調査。その結果、特に優れた候補牛だけが最終的に残り、県の種雄牛として認定される。

この選定方法の優れた点は、候補牛から生まれた調査子牛を現場の肥育農家が育てるということだ。以前は、すべての子牛をセンターが育てていた。しかし、これでは同じ環境で育った子牛のデータがとれず、データの信頼性に欠けることが研究員の悩みだった。「現場の活きた正確な数値がとれる」と研究者の本能を駆り立てられる新たな試みだった。

しかしこの方法を実行するには、畜産界のシステムが大きく立ちはた

# クレバリーホームの想い

「いい家をお求めやすい価格でご提供したい」というコンセプトの元、これまでにたくさんのご家族の夢をカタチにしました。あなたの期待を超える家づくりを目指します。


**クレバリーホーム** 郡山山崎  
 0120-955906  
<https://www.kh-9.com/jp/cleerlyhome>









厳しい選抜を受ける雌雄候補牛



を切る」となる。「これで、能力の高い種牛を作ることができる」と確信を持った研究員たち。彼らはこの後に起ることをまだ知らない。

**魂の説得**

肥育農家で、他の牛と一緒に育てられ始めた調査牛。そんなある日、後に大騒動を巻き起こす問題が持ち上がった。それは、調査牛たちの出荷が始まった時のこと。調査牛の肉を見て、サシの入りが悪いと思った。それは、細かいサシを入れることで評判の肥育農家の牛だった。

牛は通常、生後2年8カ月で出荷されて肉になる。しかし、調査牛は2年5カ月で出荷するよう、和牛登録協会で決められていた。肥育農家は、2年8カ月のサイクルで、エサをやる量などの細かいプログラムを立て、最高の状態の牛を育てる。それは、長年の経験から生みだされた職人の技だ。わずか3カ月の出荷の差でも、肉質は変わってきてしまう。

肥育農家は、2年5カ月で牛を育てるプログラムを、また長い月日をかけて作りあげなければならなかった。

「現場を苦しめるやり方に何の意味があるのか」研究員にはやり場のない怒りがこみ上げていた。行き場を失った怒りの矛先は、2年5カ月

兵庫県北部農業技術センターでは、但馬牛の維持・造成のほか、北部地域の気候を活かした農産物の開発、県内の地域農産物加工法などを研究している。また、牛舎なども見学することができる。



という規定に向けられた。

出荷月齢2年5カ月の規定を2年8カ月にする。協会への必死の説得が始まった。47ある都道府県の中で、兵庫県だけ特例を認めるわけにはいかないと、首を横に振る協会側。それでも、研究員たちは引き下がらない。あの日誓った、但馬牛の血統を守るという畜産農家との約束、その協力に応えなかった。

平成13年、その思いは、粘り強い交渉の結果により、報われることとなる。ついに出荷月齢2年8カ月でよいとする特例を認めさせた。これは、但馬牛にかける熱い思いを全国に見せつける出来事でもあった。

**エピソード**

新しい種雄牛作りが始まって、5

年。幾度もの困難を乗り越え、コンピュータや数値を元に作出した種雄牛の子牛が肉の品評会で優秀賞を取るといつ成果も出始めた。風味のある肉だと各地の評判も高い。

新しい種雄牛から生まれた子牛は肉質もよく飼いやすいと、今ではほとんどの畜産農家が協力してくれるようになった。

今日も農家との二人三脚で、但馬牛の改良に挑む研究員たち。最近では、牛の交配をシミュレーションできるコンピュータソフトを開発するなど、更に優秀な種雄牛作りに日夜励んでいる。

「血統を守れ」、それは、但馬牛に全てを注ぐ人々の熱き心によって支えられている。

協力：兵庫県北部農業技術センター

**森に暮らす快感**

「おーくの家～香り～」は、櫻本建設オリジナル商品です。価値ある住まいを標準価格でご提供いたします。お気軽にお問い合わせください。

こうのとりは環境にやさしい家づくりを目指す私達のシンボルです

**おーくの家～香り～ 誕生**

すべて本物の素材を使用の「但馬杉・吉野檜・FPの家」

木の香り、木の色、木の風合いが活きる家  
住まう人がやさしくなれる...そんな癒しの空間でもある  
「家づくり」をお手伝いいたします

受け継がれた伝統技術

**株式会社 櫻本建設**

〒668-0204 出石郡出石町宮内410 TEL 0796(52)5050

**おーくりふおーむ** (株) 櫻本建設豊岡営業所

〒668-0025 豊岡市幸町3-28 TEL 0796(24)2172

URL <http://www.ork-no-ie.com> E-mail [kashimoto@ork-no-ie.com](mailto:kashimoto@ork-no-ie.com)

【一級建築士事務所第650062号】兵庫県宅地建物取扱業協会会員 兵庫県知事免許(第3)第650057号